



新人賞作品
夭折歌人集
現代新銳集

現代短歌大系 第十一卷

(全十二卷)

一九七三年六月三十日 第一版第一刷発行

大岡 信
塚本 邦雄
編者

中井 英夫
©一九七三年

竹村 一
発行者

発行所

株式会社 三一書房

東京都千代田区神田駿河台二の九

電話〇三(二九九)三三三番
振替東京 八四一六〇番

印刷所 第一印刷株式会社
製本所 株式会社鈴木製本所

現代短歌大系

第11卷 目次

現代短歌大系新人賞作品——33

夭折歌人集——129

現代新銳集——267

解説 上田三四二——373

編集協力

齋藤 慎爾

篠 弘

正津 勉

富士田元彦

装幀
澁川 育由

現代短歌大系
新人賞作品

現代短歌大系
新人賞作品
目次

入賞作品

七竈 石井辰彦

次席作品

イカルス志願 藤川高志

思春期絵画展 長岡裕一郎

入選作品

≈ 0.27

不知火海考 青砥幸介

父帰る 柏木茂

懈怠者Ar^{アレン} 川島一紀

ゴドーを待ちながら 西出新三郎

無花果飛行船 松岡洋史

現代短歌大系新人賞発表

最終候補作品リスト

選考座談会

短評——087

參考作品——089

現代短歌大系 新人賞受賞作品

（正賞置時計・副賞十万円）

七 竈——石井辰彦

神掛けて實も葉も赤き七竈^{ナナカマド}心を見せむやまことのは

★

落のたう今日萌え出でよ艶やかにかのまれびとのつよき土産に

花ざかりの畑^{はた}にしあれば雲雀あがり水晶の降る喜びの降る

牡丹咲く不思議の肉は戦^{まの}きて男の魂^{たま}簪ゆ塔の如くに

麻の葉の浅き藍なる朝に日^けに干せる襦袢^{むつま}に春風ぞ吹く

花咲ける園の木陰の乙女に問ふ汝が戀ふ人は目覺めをるやと

白百合の白きはだへに接吻^{くちづけ}む死を齎^{もたら}すてふ黒き蛾のごと
あやかしのあやをあやなせ雨降^{あめふり}荒びの神も編め荒磯^{ありそ}海を
出し入れに發條は軋^{はね}みて羽隠^{はかくし}虫跳ぬる兔と寝る花の午後
野のイバラ野末に咲けりいたましく今降り注ぐ洛北の春
虚空^{こくう}より降るギヤマンの星無數心を刺して揚ひはり鳴く

★

宵待の花はし臘夜毎夜毎鐵路に沿ひて蚊食^{かきどり}鳥飛ぶ
湯殿より聞ゆる唄はなにとなく若さ滾^{たぎ}りてあぶら蟬鳴く
なほ青き柿^な生る家の少年の肉の萌^もを揉む午前五時
見渡せば穂もむらさきに装ひぬにはひを籠めよ時過ぐるまで
自轉車で來たる郵便配達^ひの陽に炒^いられたる肉脹らみぬ
神輿揉む夏の祭の若者の艶めく肌に揉まれよや神

少年の衣服は波に攪はれき磯にすなどる素裸すはだかの子の

門毎に托鉢を乞ふ坊主さへ笑ふ今宵は植物の宵

獨り寝る夜は蚊遣火の悔ゆられて獵男さつせなに言ふ言ふとしもなく

あけぼののあからむ東尾をひきて投げられし白球男たきの子らの聲

★

茅葺の屋根に上りて爪蓮華哀しき白きその花を摘め

ひらひらと舞ふ女學生制服セーラーの裾にし隠せ今摘みし桃

その昔太郎を産みしこの桃は太郎の尻か産毛きらめきて

舞ふ月の緑の影は昔から愛めくしうつくし物狂はしくも

肉の夢ダヴィデの夢の兄分が捧ぐる鐵に差せよ月影

玉鳴たましぎの打つつちの音は夜の田に月と呼び交ふ祭火まつりびは遠し

待ち侘ぶる餘も知らぬ田の雁が音は月に舞ひ飛べ血にこそ染みて

尾花摺る月は孕みてひとりただ踰よ越ふ影とあが君も見よ

満月にいざや捧げむ楹マ椀をかほる梵天梵鐘も鳴る

快樂はここにありの實熟れ熟れて蟻群れてあり黄金こがねなす午後

もみぢ葉の染むる出湯に若者は腰をひたせりばんなうの午後

★

凜凜りんりんとやつでに響く初雪の今宵いのちを思ひ初そめにき

あらためて青きいのちを抱き締めむ今宵たちまち雪燃ゆるまで

淡淡あはあはと咲きて散りゆく山茶花にひとひ雨降りてゆく人もなし

杣山の洞ほらにし死にし雄雉おとぎし子の死出の衣のいつくしくこそ

大口おほくちの眞神まかみ籠れる眞木森に眞木樵る人の息し眞白し

眞夜中を指して瘦せ犬遠吠えぬ雪よ降り來てあの聲を消せ

★

わが愛の井を汲みつくせうたかたの酔よひの繪合雄雄しさの君
 なしがたき憎さの君の濡髪を舐なぶらばいとし野のかほり立つ
 勁悍の若人の血は流れ出でよ兄にてもある夫つまにてもある

密林ジャングルに雄哮び聞ゆターザンの熱き向股食むかもくらへよ黒豹

警官は豚されど若き警官は猛き海豚イルカかジャムブせよ死へ

汝が腰に力を籠めて舞へよかし死こそ今年のはまれなるゆゑ

二の腕は熱くて若き回轉の鐵棒鐵の體軀からだし愛うるはし

ヴィオロンもギターもなくば我が聲と笑みて歌へり遙けさの君

★

廁たななる男の子ふたりは上下うへしたにのけぞる入日影のまた影

楯並たなめていつくしき子ら枳搔ますかきの斗搔との棒の寄宿舎の夜

夕闇はサーカス小屋に染み互り熱き吐息の遠くもあるかな

★

我が反古は燃えてぞ歌となりにける我こそまことの歌人ならずや

